

2020年8月

小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 『第35回 森の音楽会』開催とライブ配信のお知らせ



2019年『第34回 森の音楽会』より

小澤国際室内楽アカデミー奥志賀（特定非営利活動法人 小澤国際室内楽アカデミー奥志賀/理事長：小澤征爾）は、2020年9月6日（日）、『第35回森の音楽会』（会場：長野県 奥志賀高原ホテル 森の音楽堂）をこれまでのアカデミー受講経験者を主体とした2組のカルテットによる演奏で開催する運びとなりました。本演奏会は動画で生配信され、9月13日（日）までオンラインで無料視聴いただくことができます。

先に、本来予定されていた本アカデミーが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け、例年通りの合宿を行うことや、海外から講師陣やアジア圏の受講生を招聘することが困難であるため、中止することを発表致しました。

そこで、今年の特別企画として、2020年9月1日（火）～9月6日（日）の間で、これまでのアカデミー受講経験者を主体とした8名への指導（オンライン指導を含む）および演奏会を開催することが決定致しました。

また、関連行事として山ノ内町立山ノ内中学校で毎年開催される「小澤コンサート」は、“若い人たちに一流の音楽を体験させたい”という、小澤征爾の熱い想いで本アカデミー発足以前の1986年から『森の音楽会』と同時期にスタートしました。

残念ながら、今回演奏者が同校に出向いての開催は叶いませんが、毎年恒例のアカデミー受講者の伴奏に合わせた生徒の校歌合唱は、オンラインで生徒の合唱と伴奏する演奏者を繋ぎ、実施する予定です。

「小澤国際室内楽アカデミー奥志賀」は1996年よりサイトウ・キネン・フェスティバル松本で始まった「若い人たちのためのサイトウ・キネン室内楽勉強会」を前身とし、特定非営利活動法人としては2011年より活動を開始。オーディションを通過した16才～29才までの若い演奏家を対象にアカデミーを開催してきました。

「クワルテット（四重奏）は、ソロとオーケストラとを問わず、弦楽器奏者のすべての基本。だから、世界に通用する弦楽器奏者を育てるには、トップレベルの指導者による集中的なクワルテットの実習が欠かせない」という小澤理事長の信念のもと、弦楽四重奏に真摯に向き合い、新しい発見をし、音楽の仲間に出会い、沢山の学びやインスピレーションを得て、これまでの9年間で延べ200名余りの若い音楽家たちが、巣立って行きました。

また、本アカデミーの姉妹校として、2005年より「小澤征爾スイス国際アカデミー」が設立されています。

【第35回 森の音楽会 開催概要】

■日 時：2020年9月6日（日）15:30 開演（15:00 開場）

■会 場：奥志賀高原ホテル「森の音楽堂」（長野県下高井郡山ノ内町）

■チケット：3,000円（全席自由・奥志賀高原地区の宿泊者限定）

※代表お問い合わせ 奥志賀高原ホテル TEL. 0269-34-2034 詳細は、お問い合わせください。

■曲 目：受講生によるクワルテット

弦楽合奏 メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 Op. 20 より

■出 演：小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 2020 受講生

■講 師：原田禎夫 川本嘉子 ジュリアン・ズルマン 小澤征爾

■設立支援/特別協賛：ランクセス株式会社 www.lanxess.co.jp



■協 賛：奥志賀高原常会 奥志賀高原リゾート

ホテルグランフェニックス奥志賀 スポーツハイム奥志賀

■主 催：奥志賀高原常会

■共 催：特定非営利活動法人 小澤国際室内楽アカデミー奥志賀

■後 援：山ノ内町 山ノ内町教育委員会

■協 力：株式会社奥志賀高原リゾート

■配信情報：Youtube ライブにて無料生配信予定

<https://youtu.be/yp6KGNjBzoU>

YouTube で無料配信



※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて開催致します。

今後の社会情勢により、中止または無観客公演になる場合がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ 小澤国際室内楽アカデミー奥志賀 事務局広報：真野（携帯：090-4087-7418）
Tel: 03-3484-3500 Fax: 03-3483-5445 Email: oucma-pr@ozawa-academy.com
<https://ozawa-academy.com>

【2020年 アカデミー特別企画スケジュール】

9月1日（火）～2日（水） 東京都内にてセミナー
9月3日（木）～5日（土） 奥志賀高原にてセミナー
9月6日（日）「第35回 森の音楽会」

【2020年 受講生プロフィール】

《クワルテット1》



会田 莉凡



坪井 夏美

©Kei Uesugi



石田 紗樹

©Foppe Schut



黒川 実咲

会田莉凡（AIDA Ribon）1990年7月5日生まれ（30才）／ヴァイオリン

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース在学中に第81回日本音楽コンクール第1位、併せて増沢賞、黒柳賞、レウカディア賞、驚見賞を受賞。第6回ルーマニア国際音楽コンクール第1位および全部門グランプリ、第3、7回秋吉台音楽コンクール第1位ほか多数受賞。サイトウ・キネン・オーケストラ、宮崎国際音楽祭に毎年参加。2016年に川田知子氏とヴァイオリン・デュオCDをリリース。2020年4月より京都市交響楽団特別客演コンサートマスター。

坪井夏美（TSUBOI Natsumi）1993年7月5日生まれ（27才）／ヴァイオリン

第12回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞、マイケル・ヒル国際コンクール第4位、フリッツ・クライスラー国際コンクール第5位、日本音楽コンクール第3位等を受賞。ソリストとして読響、都響、東京フィル等のオーケストラと共演。CHANEL Pygmalion Days 2018アーティスト。明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生としてウィーン私立音楽芸術大学修士課程を修了。2019年7月より東京フィルハーモニー交響楽団の第一バイオリンフォアシュペーラー。使用楽器は宗次コレクションより貸与されたJ. Rocca1864。

石田紗樹（ISHIDA Saki）1991年2月15日 生まれ（29才）／ヴィオラ

東京藝術大学卒業、同大学院修了。学内にて同声会賞、大学院アカンサス音楽賞を受賞。大学院修了を機にヴィオラへ転向し、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学を修了。2019年ライオネル・ターティス国際ヴィオラコンクール セミファイナリスト賞、特別賞 受賞。サントリーホール室内楽アカデミー第3期フェロー。クワルテット奥志賀メンバー。紀尾井ホール室内管弦楽団19' シーズンメンバー。東京都交響楽団ヴィオラ副首席奏者。

黒川 実咲 (KUROKAWA Misaki) /1991年11月18日 生まれ (28才) /チェロ

第9回泉の森ジュニアチェロコンクール高校生以上の部金賞。第67回全日本学生音楽コンクールチェロ部門大学の部第2位。2015年ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール第1位。秋吉台音楽コンクール弦楽器・室内楽部門第3位。愛知県立明和高校を経て、桐朋学園大学音楽学部チェロ科首席卒業。同大学卒業演奏会、読売中部新人演奏会に出演。現在、東京フィルハーモニー交響楽団委託契約団員フォアシュペーラー。

《クワルテット2》



吉江 美桜



東條 太河



山本 周



矢部 優典

吉江美桜 (YOSHIE Mio) 1996年4月12日 生まれ (24才) /ヴァイオリン

第12回東京音楽コンクール 弦楽部門 第3位。第84回日本音楽コンクール 第3位。第6回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール 第2位。第69回プラハの春国際音楽コンクール特別賞受賞。2018.2019年度ロームミュージックファンデーション奨学生。桐朋学園大学ヴァイオリン科を首席で卒業後、同大学ソリストディプロマコースに特待生として在学中。

東條太河 (TOJO Taiga) 1997年5月21日 生まれ (23才) /ヴァイオリン

ザルツブルグ モーツァルテウム大学、東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学在学中。第62回全日本学生音楽コンクール全国大会1位、メニューイン国際コンクール3位、日本音楽コンクール入選。東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団と共演。これまでに竹原久美子、原田幸一郎、漆原朝子、ピエールアモイヤル、松原勝也、レジス パスキエ諸氏に師事。

山本 周 (YAMAMOTO Shu) /1993年10月19日 生まれ (26才) /ヴィオラ

3歳よりヴァイオリンを、18歳よりヴィオラをはじめる。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)、桐朋学園大学を経て同研究科修了。室内楽、オーケストラ奏者として国際音楽祭NIPPON、武生国際音楽祭、東京・春・音楽祭や宮崎国際音楽祭等の国内の主要な音楽祭に参加。これまでにヴァイオリンを森川ちひろ、徳永二男の各氏に、ヴィオラを佐々木亮氏に師事。サントリー室内楽アカデミー第4期、第5期フェロー。

矢部優典 (YABE Yusuke) /1998年1月29日 生まれ (22才) /チェロ

8歳よりチェロを始め毛利伯郎氏に師事。第86回日本音楽コンクールチェロ部門第2位及びE.ナカミチ賞受賞。第69回全日本学生音楽コンクール高校の部第1位及び日本放送協会賞受賞。第9回ミュージック・アカデミーinみやざき優秀賞。2016石川ミュージックアカデミー音楽賞。特待生として桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コース修了。

【講師 プロフィール】

原田 禎夫 (HARADA Sadao) / チェロ



桐朋学園大学卒。11歳より齋藤秀雄氏に師事。第33回日本音楽コンクール優勝、毎日芸術賞受賞。東京交響楽団の最年少チェロ首席奏者として活躍したのち渡米、アスペン室内管弦楽団とナッシュビル交響楽団の首席を務めた。その後ジュリアード音楽院留学。1969年に創立した東京クワルテットは翌年ミュンヘン国際コンクールで優勝を飾り、以後30年、世界の最前線で演奏活動を展開。04年より新たにアミーチ・クワルテットを結成。数多くの名録音も行い、現在、日本や欧米各地でソロ、室内楽などの演奏活動を行うほか、後進の指導にも力を注いでいる。イェール大学教授、ドイツ国立トロッシゲン音楽大学教授を経て、上野学園大学特任教授。

川本 嘉子 (KAWAMOTO Yoshiko) / ヴィオラ



©Yoko Shimazaki

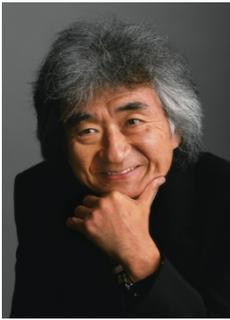
1992年ジュネーヴ国際コンクール・ヴィオラ部門で最高位(1位なしの2位)。1996年村松賞受賞。97年第7回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞受賞。東京都交響楽団首席奏者を経て、現在ではソリスト・室内楽奏者として最も活躍しているヴィオラ奏者の1人。京都アルティ弦楽四重奏団、AOIレジデンス・クワルテットのメンバー。アメリカのマールボロ音楽祭、スイスのダボス音楽祭、東京の春音楽祭、霧島音楽祭などに参加。サイトウ・キネン・オーケストラ、小澤征爾音楽塾、水戸室内管弦楽団、アルゲリッチ音楽祭等にも定期的に参加しアルゲリッチやユーリ・バシメットなど世界一流のソリスト達と共演し絶賛を博している。現在、NHK交響楽団首席客演奏者。

ジュリアン・ズルマン (SZULMAN Julien) / ヴァイオリン



パリ音楽院でジャン=ジャック・カントロフらに師事。卒業後、ハンス・アイスラー音楽院に入学。ステファン・ピカールの下でドイツ国家演奏家資格を取得できる最終課程を修了。ロン・ティボー国際コンクール、ジュネーヴ国際コンクール入賞。現在、フランス西部ナント市にあるフランス国立ロワール管弦楽団コンサートマスター、ロンドン交響楽団ゲスト・コンサートマスター。また、フランス国立管弦楽団などにソリストとしても出演。室内楽の分野でも積極的な活動を行っている。Seiji Ozawa International Academy Switzerlandのリクルーティング・コミッティーの責任者を務めており、2015年からは小澤国際室内楽アカデミー奥志賀でも講師を務めている。

小澤征爾 (OZAWA Seiji)



©Shintaro Shiratori

1935年、中国のシェンヤン（旧奉天）生まれ。幼いころからピアノを学び、成城学園中学校を経て、桐朋学園で齋藤秀雄に指揮を学んだ。1959年、ブザンソン指揮者コンクールで第1位を獲得。当時ボストン響の音楽監督であり、このコンクールの審査員であったシャルル・ミュンシュに翌夏タングルウッドに招かれた。その後、カラヤン、バーンスタインに師事、ニューヨーク・フィル副指揮者、シカゴ響ラヴィニア・フェスティバル音楽監督、トロント響音楽監督、サンフランシスコ響音楽監督を経て1973年にボストン交響楽団の第13代音楽監督に就任、アメリカのオーケストラ史上でも異例の29年という長期にわたって務めた。

ボストン交響楽団の音楽監督としてオーケストラの評価を国際的にも高め、1976年のヨーロッパ公演および1978年3月の日本公演で多大の成果を挙げる。1981年3月には、楽団創立100周年を記念して、アメリカ14都市演奏旅行を果たし、同年秋には、日本、フランス、ドイツ、オーストリア、イギリスを回る世界公演を実施。その後も1984年、88年、91年にヨーロッパ公演と1986年、1989年には日本公演を行い、いずれも絶賛を博す。1978年には、中国政府の公式招待により、中国中央楽団と1週間にわたって活動したのをはじめ、1年後の1979年3月にはアメリカのオーケストラとしては初めてボストン響を率いて再度訪中し、意義深い音楽・文化交流を果たした。それ以来、中国とは深い関係を築いている。他にも、1973年6月にはサンフランシスコ響を率いて、モスクワ（ソビエト連邦・当時）を訪れ、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチと共演している。

2002年秋には、東洋人初のウィーン国立歌劇場の音楽監督に就任、2010年春まで務めた。ヨーロッパでの評価と人気は絶大なものがあり、これまでにベルリン・フィル、ウィーン・フィルをはじめとする多くのオーケストラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場、メトロポリタン・オペラなど主要オペラハウスに出演している。

日本においては、恩師齋藤秀雄を偲んでサイトウ・キネン・オーケストラを発案、秋山和慶らの仲間に声を掛け組織し、1984年東京・大阪公演で大成功を収め、1987年、1989年、1990年にはヨーロッパ公演を、1991年にはヨーロッパ、アメリカ公演を行い絶賛を博した。1992年からは、芸術的念願であった国際的音楽祭“サイトウ・キネン・フェスティバル松本”へと発展させ、総監督に就任（～継続中）。その後もサイトウ・キネン・オーケストラは、1994年、1997年、2004年に海外ツアーを実施。フェスティバルは、2015年より、“セイジ・オザワ 松本フェスティバル”として新たなステージに踏み出した。

また、1996年にサイトウ・キネンの室内楽勉強会から始まった室内楽アカデミー奥志賀を、アジア圏の優秀な学生に門戸をひろげる小澤国際室内楽アカデミー奥志賀として2011年にNPO法人化。一方で、実践を通して若い音楽家を育成するための“小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト”（2000年～）、および“小澤征爾音楽塾オーケストラ・プロジェクト”（2009年～）を公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションの支援を受けて精力的に展開。2005年にはヨーロッパにおける音楽学生を対象にしたSeiji Ozawa International Academy Switzerlandをスイスに設立し、教育活動に力を注いでいる。その他、水戸室内管弦楽団とは1990年の創立時より親密な関係にあり、2013年からは同楽団の総監督を務めると共に水戸芸術館館長も務めている。さらに、新日本フィルハーモニー交響楽団とも創立時より定期的に活動を続けている。

これまでに国内外で受賞した賞には、朝日賞(1985)、米国ハーバード大学名誉博士号(2000)、オーストリア勲一等十字勲章(2002)、毎日芸術賞(2003)、サントリー音楽賞(2003)、フランス・ソルボンヌ大学名誉博士号(2004)、ウィーン国立歌劇場名誉会員(2007)、フランス・レジオン・ドヌール勲章オフィシエ(2008)、フランス芸術アカデミー外国人会員(2008)、日本国文化勲章(2008)、イタリア・プレミオ・ガリレオ 2000 財団金百合賞(2008)、ウィーン・フィルより日本人として初めて「名誉団員」の称号(2010)、高松宮殿下記念世界文化賞(2011)、渡邊暁雄音楽基金特別賞(2011)、ケネディ・センター名誉賞(2015)などがある。

2016年、サイトウ・キネン・フェスティバル松本 2013 で録音された小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラによるラヴェル：歌劇「子どもと魔法」のアルバムが、第58回グラミー賞最優秀オペラ録音賞を受賞。同年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団名誉団員、東京都名誉都民の称号を贈られる。